平成２６年８月１５日（火）

老球の細道４８号

コーチの選手に対する義務と責任

会津バスケットボール協会理事長　　室　井　冨　仁

この猛暑の中、ボランテイアで子どもたちのためにコーチをしてくださる皆様方には頭が下がる。ほとんど無報酬で毎日どれだけの時間とどれだけのエネルギーを費やしているか、それを考えると厳しいことは要求できない。しかし、コーチの指導力向上、子どもたちのバスケットボールを通しての真の成功のために普段考えていることを記す。

コーチという仕事には厳しい現実がある。プロもアマチュアも同じである。コーチは基本的に自分の力に頼るしかない。教員や会社員のように何かあったら上役に尻拭いをしてもらうことはできない。色々な批判にさらされながら最後に責任をとるのはコーチ自身である。コーチの資格は言わば「非常のライセンス」。

コーチの評価は基本的に勝利に委ねられる。その勝利も優れた選手を運よく抱えられれば難なく得ることができるが、そうでない場合は自分自身がきちんと指導した選手によってしか得られない。コーチが一生懸命指導しても、最終的には、選手がどのようにプレーし、チームがどのような結果を出したかでコーチが評価される。時として運が味方することもあるので、コーチの評価は１０代の若者と神の手中に委ねられている。

そんな理不尽な宿命を抱えながら日常のコーチング活動にはさらに厳しい義務と責任がともなう。明解国語辞典によると、「義務」とはその立場にある人として当然やらなければならないこと。「責任」とは自分の分担として、それだけはしなければならないこととある。どちらも似たような意味なので、ここでは「義務」を「コーチとして必ずやらなければならないこと」、「責任」を「コーチとしてすべきこと」としてとらえたい。義務を確実に果たし責任感の強いコーチにならなければならない。選手や保護者はそういうコーチに指導されたがっている。

コーチの選手に対する義務と責任を思いつくままに列挙する。

【選手に対する義務】

①プレーヤーの持っている能力を開花させること。コーチの本来の仕事である。

②十分な準備をして指導にあたること。行き当たりばったりが多い。成功は準備と共に始まることを肝に銘じたい。

③プレーヤーに自信を与えること。

④成長を促す雰囲気を作ること。どうしたらもっとうまくなるだろうか？と考えさせる。

【選手に対する責任】

①一生懸命ことにあたること。信頼を得るための基本中の基本。信頼なくしてコーチングなし。

②プレーヤーを信じること。信じることはオール OR ナッシング。中途半端はない。しかし、「プレーヤーはコーチほど考えていない」が現実。裏切られても裏切られても信じる。

③最後まであきらめない。何事も敗者は途中であきらめる。やり続けた者が最後に勝つ。

「成功する秘訣は、成功するまでやり続けることです」（松下幸之助）

重荷を背負ったコーチの仁義なき戦いは毎日続く。しかし、一度はまってしまったら、その魅力からは一生足を洗うことはできない。まさに、一生をボールに振ってしまう。